

読書会の魅力

司会 河野一典

パネルディスカッション「読書会の魅力」は、4名のパネリストによる各読書会の事例報告にはじまり、続いて特定テーマについてのディスカッション、最後にフロアも含めた質疑応答という手順で進行した。

青山巖豪氏からは、「さざなみ読書会」の活動報告があった。これは一般成人による読書会である。特定の書物について毎月当番会員が発表したあと、フリートークを楽しむ様子が紹介された。

大山みゆき氏は、「かごしま文庫の会」「ストーリーテリングの会・おはなしの森」を中心に、親子で参加する読書会をはじめ、手作り絵本や児童に発表させるおはなし会等の魅力ある活動について報告した。

川涯利雄氏は短歌会「華」の主宰である。高等学校の国語教員としての経験に基づく高校生の読書会の様子、また読書会「茂吉を読む会」の会員を紹介し、そこで現在輪読している伊藤一彦著『第10歌集 月の夜声』、三枝昂之著『評論 啄木』について報告した。

久木田みどり氏は、「小野小学校読書会」と「霧島おはなし王国」の、絵本の読み聞かせ等を活用した幅広い親子のサークル活動を報告した。

引き続きパネリスト同士のディスカッションに移った。まず、読書(会)の効用(特に児童・青少年に対する)に関連して、

- 1 人間の心の成長に果たす読書の役割
- 2 読書会による絆(人間関係)の形成

について話し合われた。各パネリストからは、幼児期から青少年期にいたるまで、読書によっていかに子どもや青少年の心が成長するかということ、また読書を通して築かれた親子関係や教師と生徒との絆の深まりについて、具体的な事例をもとにした主張が相継いだ。

次に、読書会の活動にどのように取組み、またその輪を広げていくか

という実際的な問題として

3 読書会の楽しみ方

4 読書会の勧め方

について話し合われた。読書会で扱った魅力ある書物の紹介や創意工夫した活動内容が各パネリストから紹介された。

最後にフロアからは、椋鳩十（1905～87）が鹿児島県立図書館長だった1960年5月に提唱した「母と子の20分間読書運動」が鹿児島県のあちこちに継承され息づいていることの見解が出され、そのような親子の読書習慣を幼児期から育むことを是非推進すべきとの提案をもって、本パネルディスカッションを閉幕した。

パネルディスカッションのあらましは以上のおりであるが、各パネリストの主要な主張について、次頁以降にまとめてもらったので一読されたい。

（鹿児島純心女子短期大学教授）